



「考え、議論する」道徳の授業

26日に、道徳の研究発表会の授業がありました。100人近くの先生が授業を見に来て緊張感がある中で、まずは自分の考えをしっかり持ち、友達と話をすることで自分の考えを深め、発表することができました。

今回の授業では、まず広島伝統工芸である「宮島彫り」にたずさわる広川和男さんの話を読み、郷土に対する愛情や伝統を守ること、先人に感謝することについてグループで話し合いました。そのあと、地元門前祭りにたずさわる丹圃さんと3年生の亀岡先輩のインタビュー映像を見て、伝統を受け継いでいる人の思いを知りました。伝統を守ることの大切さや大変さを通して、門前町の良さや、未来の門前の課題などについて考えることができました。

私が生まれた門前町では、伝統的な祭りや行事があっても子どもなど人口が減ってきて伝統を受けついでいくのは将来大変だろうなと思いました。私はこのふるさとを、どこへ行っても広川さんのようにだれかに伝えられるようになりたいです。

これから、ふるさとにある伝統的な祭りをたえさせないように、祭りができる事に感謝して、自分の次の代の人にも伝えていき、ふるさとのいい所を減らさないようにしていきたい。

ふるさとは自分が1番安心して暮らせるところになると思いました。祭りなどを通して人と人とのつながりや伝統を終わらせたくないという強い気持ちが大切だと思いました。

門前で祭りや伝統行事に今まで楽しいからという思いで参加していたけど、昔から伝わっているものを守るために参加するという思いになれ

この話を読み、やはりふるさは大事なものだと思った。1つ祭りをするだけでもたくさんの人が関わっている。自分も祭りなどに参加したら、自分のためだけでなく地域のためにも頑張りたい。

